鳥取大学

産学・地域連携推進たより

Topixs !!

- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業報告

2014
夏号

①研究推進に関する事業報告

1.異分野融合研究の育成支援事業　【4 月 1 日（火）】

産学・地域連携推進機構では、平成 22 年度から異分野融合研究の育成支援事業をスタートしています。この異分野融合研究は将来の大型プロジェクト研究や大型共同研究に繋がる実践的な応用研究分野において支援しており、学部を横断した異分野研究者がタッグを組み、多角的な視点のもと研究開発を行っています。平成 24 年度からは異分野融合研究の中に重点研究枠を設け、「未利用資源の高機能化研究開発」を推進しています。この重点研究は、地域にある未利用の水産資源、農林資源等の探索・発掘を行い、従来にない付加価値を有する高機能製品の研究開発を行うこと、さらに最終的にはその成果を地域に還元することを目標としています。平成 26 年度には重点研究 3 件（継続 1 件含む）、一般研究 4 件（継続 2 件含む）、及び育成研究 1 件を採択し、異分野融合型の研究開発を推進しています。ここで、新規の重点研究は「小麦粉製品に物性向上と機能性をもたらす新たな技術の開発」、「梨由来ポリフェノール及びセルロースナノファイバーを活用した健康食品・機能性商品の開発」、また一般研究は「染色体工学技術に基づくスクリーニング系を用いた菌類きのこ資源からの医薬リード化合物の効率的探索」、「アルツハイマー病モデルマウスにおける簡便な認知障害評価方法の確立」の異分野テーマが採択されました。

2.産業科学特別講義【4 月 15 日（火）～　開催：工学部第 21 講義室】

産学・地域連携推進機構では、工学研究科、農学研究科、地域学研究科の大学院生、及び一般の方を対象に、産業科学特別講義をオムニバス形式で開講しています。講師陣は、産学・地域連携推進機構の専任教員、コーディネーターのほかに、産業界や産学官連携などで活躍されている方を客員教授として迎え、研究・技術開発や知的所有権、健康、科学政策など広範な現代的課題について、多様な観点から 15 回の講義を行います。受講生は工学研究科 144 名、農学研究科 23 名、一般 1 名（計 168 名）となっています。第９回目は客員教授の佐々木茂雄氏（発明推進協会 知的財産プロデューサー）が「国家レベルの研究開発プロジェクトにおける戦略的マネジメント」と題し、グリーン（環境・エネルギー）イノベーションを中心に講義がありました。

3.はりま産学交流会　6 月創造例会　【6 月 20 日（金）　開催：姫路商工会議所】

本年度初めてとなる「はりま産学交流会」が約 90 名の参加者のもと開催されました。同交流会は、はりま地区の中小企業と関西地区の大学の交流の場となる集まりです。大学側からは全 6 件の発表があり、本学からは大学院工学研究科の中井唱助教が「2 方向顕微鏡観察による微小対象物の 3 次元計測」と題して、医療への応用が期待される、従来の 2 次元顕微鏡から菌や微生物の遊泳運動解明のための 3 次元顕微鏡システムについて発表しました。また、大学院工学研究科の阿部友紀准教授が「有機-無機ハイブリッド型 ZnSSe 系紫外 APD 光検出器の開発」と題して、従来の真空管方式から半導体を用いた低電圧動作可能な、応答性に優れた光検出器開発について、特にポリイミド保護膜をハイブリッド APD に形成することで、すぐれた特性が得られることを発表しました。両発表に対しては専門的な質問も飛び出すなど、活発な討議も行われ、その後の交流会も盛況に終わりました。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 鳥取銀行寄附講座「マーケティング論」開講　【4 月 11 日（金） 開催：鳥取大学共通教育棟】

鳥取銀行による寄附講座「マーケティング論」を開講しました。本講座は、講師に岡山理科大学の山口教授をお招きし、企業におけるマーケティングを如何に発想するかを論理的に考え、豊かなマーケティング発想力を涵養することを目的としています。

講義内容は学生の就職を見据えたものとなっており、今年度は 84 名の受講生が熱心に受講しています。また、5 月 23 日には鳥取銀行の宮崎正彦頭取にご講演いただき、銀行業務の解説から鳥取銀行の経営理念とそれを実現させるための施策、学生に期待すること等について、ご自身の経験を踏まえた臨場感溢れるお話をしていただきました。

2. 平成 26 年度ものづくり協力会議総会・懇親会　【4 月 11 日（金） 開催：鳥取市文化センター】

総会には、役員と会員41名が参加しました。本学の法橋誠理事の挨拶の後、本協力会議の会長である地域学部の土井康作教授から平成25年度の事業報告、事業外部評価、収支決算についての報告と平成26年度の事業計画案と予算案の説明があり、全会一致で承認されました。

また、5月17日にオープン予定のファブラボとっとりの見学会も行われ、デジタル機器を備えた市民開放型のファブラボを見ていただきました。

3. サイエンス・アカデミー「航空技術と宇宙開発の最前線」開講

【4 月 12 日（土） 開催：鳥取県立図書館】

鳥取大学では地域住民の皆様を対象に、本学の教員が行っている研究や、日頃疑問に思っていることなど中心に、自然科学、技術、環境、地域社会に関する今日的問題等についてテーマ毎に紹介する「サイエンス・アカデミー」を毎月第2・第4土曜日に開催しています。4～5月は「航空技術と宇宙開発の最前線」シリーズとして、本学で行われている航空宇宙分野の研究について計4回開催しました。初回は工学研究科の川添博光教授が「空を飛び宇宙へ、そして地球に帰る」と題して、空を飛ぶ仕組み、地球圏外への脱出、そして地球帰還に伴う問題等についてわかりやすくご講演いただきました。

4. くらしの経済・法律講座開講　【4 月 14 日（月） 開催：鳥取大学共通教育棟】

悪質商法の手口や消費者を守る法律、民法から労働法までくらしに役立つ法律、環境問題、投資やお金の話など、各分野の専門家がわかりやすく説明する「くらしの経済・法律講座」が、4月から7月まで計15講座開設されます。本講座は、本学で行っている授業を一般市民向けに公開する「公開授業講座」として位置付けており、鳥取県消費生活センターと連携実施しています。4月14日に開催された第１回目では「最新の消費生活トラブルについて」というテーマで講義が行われ、多数の方にご聴講いただきました。

5. 平成 26 年度第 1 回産学・地域連携推進室連絡会及び西部連絡会

【4 月 8 日（火） 開催：産学・地域連携推進機構、4 月 17 日（木） 開催：医学部総合教育棟】

県内機関の産学金官連携を深めるため、産学・地域連携推進室連絡会を平成 17 年 1 月より毎月 1 回第 2

火曜日に開催しています。今年度第１回目の連絡会では各機関と本学からの報告の後、本学地域貢献・生涯学習部門の清水克彦副部門長が、産学・地域連携推進機構の役割、組織体制等について説明し、参加機関へ協力要請を行いました。

また、西部地区では二か月に1回程度第3木曜日に医学部を会場に連絡会を開催しています。各機関の情報交換や意見交換、そして地元企業により特徴ある技術や取組等を紹介していただくなど、参加機関のお役に立てる会となるよう心掛けています。今年度第1回目の連絡会では、本学医学部附属病院次世代高度医療推進センターの植木賢教授が、「イノベーション教育による医療機器産業化を目指して」と題して講演を行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。

6. ＴＮＳ登録研究会代表者会議　【4 月 21 日（月）　開催：産学・地域連携推進機構】

第１回とっとりネットワークシステム（TNS）登録研究会代表者会議を、産学・地域連携推進機構にて開催しました。とっとりネットワークシステム（TNS）とは、産官学連携に積極的に関わる人たちの活発な交流により、鳥取県に寄与する新たな活動が生み出されることを期待して設立された会で、現在 27 の研究会で構成されています。会議では、各登録研究会から活動報告を受けた後、意見交換が行われ、本会のより一層の相互連携を図るため、各研究会の会員リストを登録研究会同士の情報交換に活用することなどが話し合われました。

今年度も、TNS の活動をより活性化し、さらなる地域貢献を進めていきます。

7. とっとり産業フェスティバル 2014 実行委員会　【5 月 7 日（水）　開催：鳥取県庁】

平成26年度のとっとり産業フェスティバル開催に向け、5月7日(水)に今年度第1回目の実行委員会を鳥取県庁で開催しました。フェスティバルのテーマや目的について再確認が行われた後に、基調講演の講師選定やプログラムの内容、タイムスケジュール等について議論が行われました。今後は各分野のリーダーを中心に、検討を重ねながら準備を進めていきます。

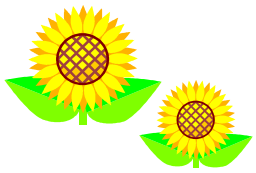
8. 第１回竹林整備と竹利用に関する鳥取県連携協議会幹事会

【5 月 8 日（木）　開催：鳥取県福祉人材研修センター】

本年度第１回幹事会を開催しました。昨年度までは本学が事務局として本協議会を運営してきましたが、本年度より「特定非営利活動法人賀露おやじの会」に事務局を移し活動を進めることになりました。幹事会では、本年度の活動計画や総会日時の確認にあわせ、本協議会の活動に関する広報についても積極的に行うこととし、具体的には広報紙の発行やホームページの立上げ等について話し合われました。

9. 第 11 回文化芸術の夕べ　【5 月 12 日（月）　開催：鳥取大学地域学部棟】

鳥取大学と鳥取県及び地域の文化活動に熱心に取り組んでいる機関が連携を促進することを目的として、「第11回文化芸術の夕べ」（主催：地域学部附属芸術文化センター）が開催されました。総勢41名の参加者があり、産学・地域連携推進機構（地域貢献・生涯学習部門）からは5名が参加しました。意見交換会では、各機関の活動紹介が行われ、その後アートプラザに場所を移しての交流会では、和やかな雰囲気の中、活発な情報交換を行いました。



10. ファブラボとっとりキックオフシンポジウム

【5 月 17 日（土）～18 日（日） 開催：鳥取市文化センター】

5/17,18 に開催された「ファブラボとっとりキックオフシンポジウム」が盛会に終了し、多数の教育・行政関係者、大学生に加え、多くの一般の方を含む 150 名の方が参加しました。本シンポジウムでは豊島良太鳥取大学学長、深沢義彦鳥取市長の挨拶のあと、基調講演としてファブラボジャパン発起人の田中浩也 氏（慶應義塾大学准教授）、JST 科学ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ事務局長の長谷川奈治氏の講演があり、その後の事業紹介、パネルディスカッションなど大いに盛り上がりました。

また最後に平井伸治鳥取県知事に急きょ駆けつけていただき、メッセージもいただきました。さらには交流会では世界のファブラボからオープンへのお祝いメッセージもいただき、正式にファブラボネットワークの一員となりました。その他、ファブラボ見学ツアーは 2 日間で総勢 210 名の参加で、ファブラボとっとりへの関心の高さがうかがえ、5/18 の手づくりまつり、体験ワークショップでは、子どもから大人の方まで参加があり、実際につくる楽しみも体験しました。

11. 平成 26 年度第 1 回とっとり防災・危機管理研究会

【5 月 27 日（火） 開催：鳥取大学広報センター】

今年度第 1 回目となるとっとり防災・危機管理研究会を広報センターにて開催しました（参加者 28 名）。本会は大学教員、行政職員、民間企業などで構成される研究会で、各分野の専門家が連携・協同し、非常時における様々な防災・減災研究等を推進し、その成果を広く地域社会に発信しています。

第 1 回目となる今回は、はじめに松原雄平会長から昨年度の事業報告が行われ、その後自治体からの報告、大学教員による今年度地域と連携して実施する防災・減災関連事業について説明がありました。今後も、地域の方々に本会の活動に関する理解を深めていただけるよう、地域と密接に連携して、防災活動を展開していきます。

12. 第 7 回「大学は美味しい！！」フェア

【5 月 28 日（水）～6 月 3 日（火） 開催：新宿高島屋】

本イベントは全国各地の大学が独自に開発した大学ブランド商品、大学と地域が連携して生まれた商品、各大学のアイデアが活かされた商品等を集積し展開する展示即売会です。本学は第 4 回から参加しています。

今年は㈲AON ケミカルが工学研究科斎本教授と共同開発した二十世紀梨酢を、㈱グラン・クリュ食工房カフェ・ダール・ミュゼが農学部渡邉教授が研究に関わる黒らっきょうや黒らっきょうを使った調味料「黒らっきょう醤」を販売しました。いずれの商品も高い関心を集め、店員の話に耳を傾け、試食した後、多くのお客様にお買い求めいただきました。

13. 地（知）の拠点整備事業シンポジウム 【6 月 1 日（日） 開催：鳥取大学共通教育棟】

文部科学省による採択事業「地（知）の拠点推進事業（大学 COC 事業）」を推進するため、6 月 1 日に「地域とあゆむ大学へ ～今後の展開と期待～ 」をテーマにシンポジウムを開催し、一般の方々を含め約 160 名が参加しました。

シンポジウムでは、自治体等が抱える課題の発見や解決に向け鳥取大学が持つ知財・人材をいかにして活用すべきかや、今後どのような連携を行っていくべきかなどについて、平井鳥取県知事、田中新日本海新聞社編集制作局長、豊島鳥取大学長による鼎談を行いました。平井知事から「世界で通用する人材の育成」、「地域産業のイノベーションに繋がる取組み」等、鳥取大学に対する期待が寄せられたほか、参加者から「過疎化社会における大学の役割」、「競争社会に生き残る逆境に強い人材の養成」等の忌憚のない意見が寄せられました。

なお、当日はパネルディスカッション、平成 25 年度地域志向教育研究事業実施者からの事例報告、パネル展示等も行われ有意義なものとなりました。

14. 農学部と鳥取県農林水産部との意見交換会　【6 月 2 日（月） 開催：鳥取大学広報センター】

当意見交換会は両機関が連携してそれぞれの事業を効率よく推進することを目的として、毎年 1 回実施されています。田村農学部長、岸田農林水産部長による挨拶に続き、両機関の今年度の主な取組みを報告した後、連携の必要な課題や依頼事項について協議がなされ、また、さまざまな情報交換が行われました。43名が参加し、活発な意見交換が行われました。

また、意見交換会に先立ち、農学部の施設見学会を行いました。フィールドサイエンスセンター及び菌類きのこ遺伝資源研究センターにおいて、担当者から詳細な説明をさせていただきました。県職員18名が参加され、熱心に説明を聞かれました。

15. 公開講座開講　【6 月 7 日（土） 開催：鳥取大学広報センター】

本学では地域住民の皆さんに学習の機会を広く提供するとともに、本学と地域社会との連携を深めるため、毎年公開講座を実施しております。

今年度は「大学を活用する地域　地域を活用する大学」をテーマとし、少人口・高齢社会における生活・交通・健康・空き家対策といった身近で切実な課題の解決に大学の知をどのように活かしていくのか、地域の知の拠点として鳥取大学が実践する地域をフィールドとした教育・研究の今をご紹介します。初日の講義には、37 名が参加され、受講生は熱心に聞き入り、講義後は活発な質疑応答が行われました。今後は、7 月に本学米子キャンパスで、9 月に倉吉交流プラザで開催します。

16. 平成 26 年度第 1 回鳥取大学・日南町連携事業ワーキンググループ会議

【6 月 10 日（火） 開催：日南町役場】

6月10日（火）、日南町庁舎を会場に、「鳥取大学・日南町連携事業ワーキンググループ会議」を開催しました。大学教職員をはじめ日南町職員ら計27名が参加し、今年度第1回目となる本会では、

主に今年度連携して行う事業内容の確認と今後の取組みや課題について意見交換を行いました。
　次回は、11月中旬頃に開催し、連携事業の進捗状況や来年度の連携事業に向けての打合せを行う予定です。

17. 第 18 回因幡の手づくりまつり　【6 月 14 日（土）　開催：智頭街道商店街・五臓圓ビル】

　今年 18 年目を迎えた因幡の手づくりまつりは、鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取短期大学、智頭街道商店街振興組合等で構成される実行委員会で企画し、鳥取市内の智頭商店街において、商店街関係者、職人、大学生、ものづくり道場カフェメンバーら 300 人のスタッフが 42 ブースを出展し、1,000 人の子ども達や保護者を迎えました。
　当日は好天にも恵まれ、地域と連携することで盛況な手づくりまつりとなりました。出展ブースは、遷喬小学校の児童が参加者に教えるブースをはじめ、ろうけつ染め、和菓子、和紙など伝統的なものづくりから電子工作の科学・技術的なものづくりまで幅広く、子ども達は多彩な講師陣から工夫の凝らされた質の高いものづくりを学びました。

18. 第 7 期とっとりグランマ倶楽部開講　【6 月 28 日（土）　開催：鳥取大学広報センター】

　今年度で 7 期目となる「とっとりグランマ倶楽部」が、6月から8月の計6日間に渡り、鳥取大学広報センターを会場に開催されます。「全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」も行われる今期の開催テーマは、「多様性～互いを認め合い、共に生きる仲間づくり～」です。6月28日には開講式が行われ、その後、明治大学専門職大学院ガバナンス研究科の源由理子教授による導入講義が行われました。今後も、鳥取大学の教員のほか、倉吉市で障がい者支援を行われている団体や公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会など、様々な分野の講師が講義を行う予定です。
　とっとりグランマ倶楽部では、鳥取の女性たちの様々な学びや出会いを通じて、これからの地域に必要なものは何か、いま自分にできることは何かを考え、地域づくりの担い手として実践するための知識や方法を学ぶ講座を開催していきます。

19. 鳥取銀行による鳥大技術シーズ紹介冊子（vol.4）の発行

　これまで本学と様々な連携を図っている鳥取銀行から銀行顧客向けの鳥大技術シーズ紹介が発行されました。このシーズ紹介冊子では銀行員によるインタビューや共同研究先のコメントなども記載して分かりやすく作られています。Vol.4 となる今回は工学研究科の櫛田助教の「ICT を活用した入院患者の転落予防システムの開発」の技術シーズが掲載されています。大学 HP にも掲載されていますので、是非一度ご覧ください。

③知的財産管理運用に関する事業報告

1. 下田一弘 客員教授（弁理士）就任【4 月 1 日（火）～】

本年４月から産学・地域連携推進機構の客員教授として、知的財産の専門家として、主に工学系技術分野の特許相談を担当して頂くことになりました。下田先生には、これまでの企業における研究開発、生産・品質保証、知的財産管理の実務経験等の経験を生かして頂き、本学の研究成果の実用化に向けて、知的財産権の面から支援を頂いています。

2. 理系学生のためのグローバルキャリアデザイン 公開講座

【5 月 22 日（木）、6 月 9 日（月） 開催:共通教育棟 第 32 講義室】

授業科目「理系学生のためのグローバルキャリアデザイン」において、三菱電機株式会社 顧問 堤和彦氏（前常務執行役開発本部長）、および菱電湘南エレクトロニクス（株）技師長 和高 修三氏を講師として迎え、公開講座を行いました。堤氏からは、「総合電機メーカーの研究開発」と題して、三菱電機の研究戦略、産学連携などオープンイノベーション、グローバル化への対応など、具体的な事例を含めて紹介がありました。また、近年新興国の技術力の向上など、商品開発における国際競争が厳しくなっている中で、特に基盤技術の強化を重要視している点など、グローバル戦略に向けた示唆に富んだ内容でした。本講義に関しては、学部生を中心に、学外からの参加者もあり約 70 名の聴講者がありました。

3. 平成 26 年度 中国地域産学官連携コンソーシアム運営会議

【5 月 20 日（火） 開催:岡山大学 本部棟】

中国地域産学官連携コンソーシアム（さんさんコンソ）の事業報告と事業計画の協議を行う運営会議が岡山大学を会場に行われました。今回、大学等の正会員から 9 大学、経済団体等の特別会員から 9 機関が参加しました。会議では、さんさんコンソ事務局から、平成 25 年度の事業報告と 3 月に行われた外部評価委員会の報告、および平成 26 年度の事業計画について説明を行いました。本年度の新たな取り組みとして、正会員の有志による企画委員会を新たに組織し、各正会員による新規事業の企画や情報交換を行い、事業の活性化を図ることを事務局から提案し、本提案を含めて事業計画が承認されました。また会議の最後には、経済産業省産業技術環境局大学連携推進課・田村氏から「大学における営業秘密管理指針作成のためのガイドライン」について説明が行われました。

4. さんさんコンソ主催「知財教育セミナー」

【5 月 13 日（火）、6 月 11 日（水） 開催:産学・地域連携推進機構 研修室】

特許、実用新案、意匠、商標等の知財全般にわたる初心者向けの解説から、権利侵害や他者特許対策などの上級者向けの解説まで幅広い講義を行う知財教育セミナーを開催しています。本セミナーは、さんさんコンソの事業として、岡山大学を会場に行われてきたものですが、本年度から岡山大学を主会場にして各正会員の会場へ WEB 会議システムによって中継を開始しました。5 月から 8 月まで 1 月に 1 回のセミナーが開催されています。初めて知財に関連する研修を受講したい方にも、わかりやすい内容のセミナーです。7 月からは、中・上級コースとして、米子キャンパスでも中継する予定です。

発行日：平成 26 年 7 月 15 日＜第 37 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp